

更級への旅

芭蕉の「更級姫捨」来訪 320年・その5

めざ、しんしさがうかがえます。
▽一茶風の確立後
その後に訪れたのは、約十五年後、師匠の地位を確立して晩年の文政六年（一八二三）、六十一歳のとき（逝去は一八二七年、享年六十五）。ただ、このときも大雨が降り、姫捨山に来ること、つまり千曲川を渡ることができず、対岸から姫捨山を眺めたと思われます。列挙します。

松尾芭蕉との縁の地として知られるさらしな・姫捨ですが、信濃国柏原（長野県上水内郡信濃町）生まれで全国に知られる俳人、小林一茶はどうだったのか。一茶の生誕は一七六三年。芭蕉より百三十年余り後の世代となりますが、芭蕉に感化されたのは確かです。

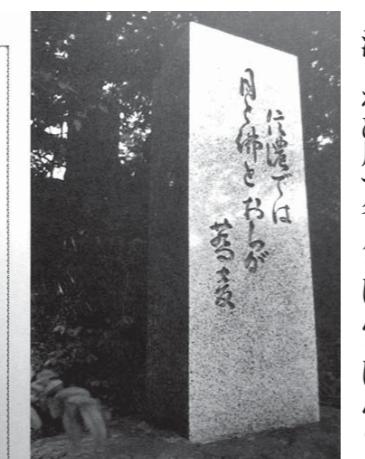
二松学舎大学（東京都千代田区）文学部教授、矢羽勝幸さんの著書「姫捨山の文学」によると、一茶は芭

蕉來更から百十一年後の一七九九年を初回に計四回ほど、中秋のころの当地を訪ねました。いくつも残した一茶の句を読んでいて思るのは、記録性です。当時の様子が目に浮かびます。生活詩人と称される一茶だから切り取れたさらしな・姫捨の世界が生き生きと存在しています。

△姫岩に仏様
長楽寺（千曲市、旧更級郡八幡村）の月見堂の前には、「佛や姫ひとりなく月の友」の句を刻んだ石碑「面影塚」がありますが、現在、林立する句碑の先駆けで明和六年（一七六九）、地元の俳人有志が建立しました。これを機に長楽寺を含むさらしな・姫捨は俳人が訪れたい主要スポットの一つとなり、中秋の長楽寺は一帯はとにかく人が集まる場になっていたようです。

「けふ」というは「きょう」、今夜の意味。名月鑑賞がさらしな・姫捨で出来た喜びが率直に伝わってきます。次は――

△名月や仮のように膝を組み
この句の前書きには「石上」とあるので、長楽寺境内の姫石の上にいた人たちの様子だということです。あぐらをかいした人たちが月の光を浴びて仏様のように見えたのです。さらに次の句もそのときに詠んだ可能性があるということです――



△暗き中で湧く清水

長楽寺境内には、一茶の句碑と明

示されたものはありませんが、一茶の句として広まっている（確定はできていません）「信濃ではおらが仏とおらがそば」の碑が建っています。左の写真は矢羽勝幸さんの別の著書「姫捨・いしづみ考」で紹介されているこの句の部分です。旧更埴市（現千曲市）が同じ杏の産地である愛媛県宇和島市と姉妹都市関係を締結した際に、宇和島市が記念に建立したそうです。

宇和島市は松尾芭蕉の母の出身地とされていますが、姉妹関係にあることを教えてくださったのは、矢羽さんの著書の出版に尽力された屋代西沢書店（千曲市桜堂）社長の柳澤純さんです。

上の写真は一茶が姫捨に初めて来た寛政十一年（一七九九）に詠んだ句「姫捨のくらきなかより清水かな」の素材になつたとされる宝ヶ池です。初回に詠んだ句は少なく、旅の途上で立ち寄りのせいだったのかかもしれません。宝ヶ池は姫石の裏にあります。この句は蕉風を強く感じさせます。宝ヶ池に湧く清水が月明かりを浴び光を放っていたのでしょうか。

一夜さは我さらしなよさらしなよ

△姫岩に仏様

長楽寺（千曲市、旧更級郡八幡村）の月見堂の前

には、「佛や姫ひとりなく

月の友」の句を刻んだ石

碑「面影塚」がありますが、

現在、林立する句碑の先駆

けで明和六年（一七六九）、

地元の俳人有志が建立し

ました。これを機に長楽寺

を含むさらしな・姫捨は俳

人が訪れたい主要スポット

の一つとなり、中秋の長楽

寺は一帯はとにかく人が集

まる場になっていたようです。

△名月や仮のように膝を組み

この句の前書きには「石上」とあ

るので、長楽寺境内の姫石の上にい

た人たちの様子だということです。

あぐらをかいした人たちが月の光を浴

びて仏様のように見えたのです。さ

らに次の句もそのときに詠んだ可能

性があるということです――



△暗き中で湧く清水

長楽寺境内には、一茶の句碑と明

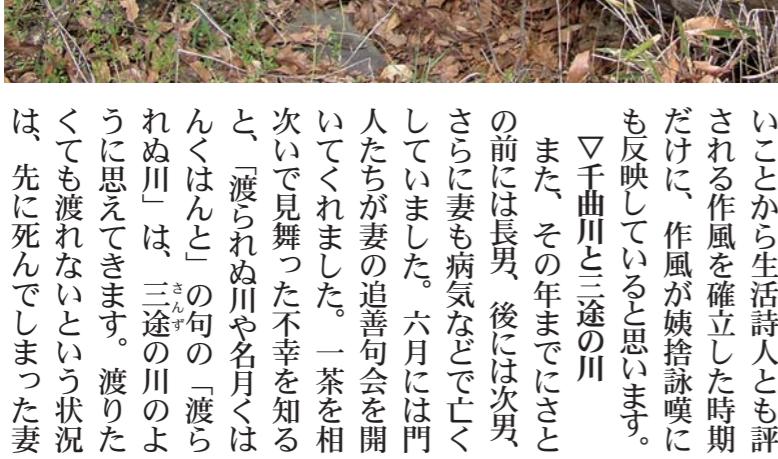
示されたものはありませんが、一茶の句として広まっている（確定はできていません）「信濃ではおらが仏とおらがそば」の碑が建っています。左の写真は矢羽勝幸さんの別の著書「姫捨・いしづみ考」で紹介されているこの句の部分です。旧更埴市（現千曲市）が同じ杏の産地である愛媛県宇和島市と姉妹都市関係を締結した際に、宇和島市が記念に建立したそうです。

宇和島市は松尾芭蕉の母の出身地とされていますが、姉妹関係にあることを教えてくださったのは、矢羽さんの著書の出版に尽力された屋代西沢書店（千曲市桜堂）社長の柳澤純さんです。

上の写真は一茶が姫捨に初めて来た寛政十一年（一七九九）に詠んだ句「姫捨のくらきなかより清水かな」の素材になつたとされる宝ヶ池です。初回に詠んだ句は少なく、旅の途上で立ち寄りのせいだったのかかもしれません。宝ヶ池は姫石の裏にあります。この句は蕉風を強く感じさせます。宝ヶ池に湧く清水が月明かりを浴び光を放っていたのでしょうか。

△姫岩に仏様
長楽寺（千曲市、旧更級郡八幡村）の月見堂の前には、「佛や姫ひとりなく月の友」の句を刻んだ石碑「面影塚」がありますが、現在、林立する句碑の先駆けで明和六年（一七六九）、地元の俳人有志が建立しました。これを機に長楽寺を含むさらしな・姫捨は俳人が訪れたい主要スポットの一つとなり、中秋の長楽寺は一帯はとにかく人が集まる場になっていたようです。

△名月や仮のように膝を組み
この句の前書きには「石上」とあるので、長楽寺境内の姫石の上にいた人たちの様子だということです。あぐらをかいした人たちが月の光を浴びて仏様のように見えたのです。さらに次の句もそのときに詠んだ可能性があるということです――



△暗き中で湧く清水

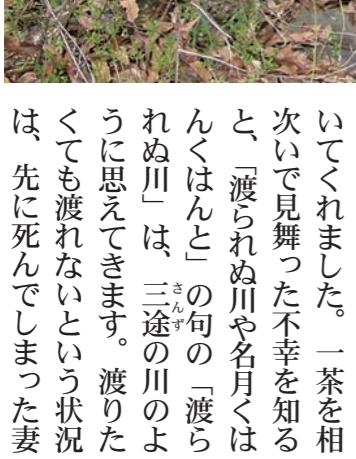
長楽寺境内には、一茶の句碑と明示されたものはありませんが、一茶の句として広まっている（確定はできていません）「信濃ではおらが仏とおらがそば」の碑が建っています。左の写真は矢羽勝幸さんの別の著書「姫捨・いしづみ考」で紹介されているこの句の部分です。旧更埴市（現千曲市）が同じ杏の産地である愛媛県宇和島市と姉妹都市関係を締結した際に、宇和島市が記念に建立したそうです。

宇和島市は松尾芭蕉の母の出身地とされていますが、姉妹関係にあることを教えてくださったのは、矢羽さんの著書の出版に尽力された屋代西沢書店（千曲市桜堂）社長の柳澤純さんです。

上の写真は一茶が姫捨に初めて来た寛政十一年（一七九九）に詠んだ句「姫捨のくらきなかより清水かな」の素材になつたとされる宝ヶ池です。初回に詠んだ句は少なく、旅の途上で立ち寄りのせいだったのかかもしれません。宝ヶ池は姫石の裏にあります。この句は蕉風を強く感じさせます。宝ヶ池に湧く清水が月明かりを浴び光を放ていたのでしょうか。

△姫岩に仏様
長楽寺（千曲市、旧更級郡八幡村）の月見堂の前には、「佛や姫ひとりなく月の友」の句を刻んだ石碑「面影塚」がありますが、現在、林立する句碑の先駆けで明和六年（一七六九）、地元の俳人有志が建立しました。これを機に長楽寺を含むさらしな・姫捨は俳人が訪れたい主要スポットの一つとなり、中秋の長楽寺は一帯はとにかく人が集まる場になっていたようです。

△名月や仮のように膝を組み
この句の前書きには「石上」とあるので、長楽寺境内の姫石の上にいた人たちの様子だということです。あぐらをかいした人たちが月の光を浴びて仏様のように見えたのです。さらに次の句もそのときに詠んだ可能性があるということです――



△暗き中で湧く清水

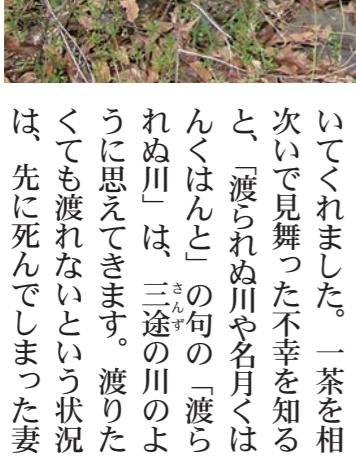
長楽寺境内には、一茶の句碑と明示されたものはありませんが、一茶の句として広まっている（確定はできていません）「信濃ではおらが仏とおらがそば」の碑が建っています。左の写真は矢羽勝幸さんの別の著書「姫捨・いしづみ考」で紹介されているこの句の部分です。旧更埴市（現千曲市）が同じ杏の産地である愛媛県宇和島市と姉妹都市関係を締結した際に、宇和島市が記念に建立したそうです。

宇和島市は松尾芭蕉の母の出身地とされていますが、姉妹関係にあることを教えてくださったのは、矢羽さんの著書の出版に尽力された屋代西沢書店（千曲市桜堂）社長の柳澤純さんです。

上の写真は一茶が姫捨に初めて来た寛政十一年（一七九九）に詠んだ句「姫捨のくらきなかより清水かな」の素材になつたとされる宝ヶ池です。初回に詠んだ句は少なく、旅の途上で立ち寄りのせいだったのかかもしれません。宝ヶ池は姫石の裏にあります。この句は蕉風を強く感じさせます。宝ヶ池に湧く清水が月明かりを浴び光を放ていたのでしょうか。

△姫岩に仏様
長楽寺（千曲市、旧更級郡八幡村）の月見堂の前には、「佛や姫ひとりなく月の友」の句を刻んだ石碑「面影塚」がありますが、現在、林立する句碑の先駆けで明和六年（一七六九）、地元の俳人有志が建立しました。これを機に長楽寺を含むさらしな・姫捨は俳人が訪れたい主要スポットの一つとなり、中秋の長楽寺は一帯はとにかく人が集まる場になっていたようです。

△名月や仮のように膝を組み
この句の前書きには「石上」とあるので、長楽寺境内の姫石の上にいた人たちの様子だということです。あぐらをかいした人たちが月の光を浴びて仏様のように見えたのです。さらに次の句もそのときに詠んだ可能性があるということです――



△暗き中で湧く清水

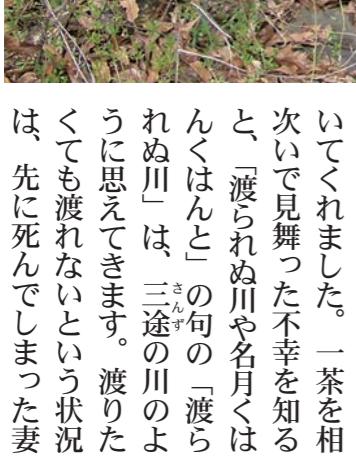
長楽寺境内には、一茶の句碑と明示されたものはありませんが、一茶の句として広まっている（確定はできていません）「信濃ではおらが仏とおらがそば」の碑が建っています。左の写真は矢羽勝幸さんの別の著書「姫捨・いしづみ考」で紹介されているこの句の部分です。旧更埴市（現千曲市）が同じ杏の産地である愛媛県宇和島市と姉妹都市関係を締結した際に、宇和島市が記念に建立したそうです。

宇和島市は松尾芭蕉の母の出身地とされていますが、姉妹関係にあることを教えてくださったのは、矢羽さんの著書の出版に尽力された屋代西沢書店（千曲市桜堂）社長の柳澤純さんです。

上の写真は一茶が姫捨に初めて来た寛政十一年（一七九九）に詠んだ句「姫捨のくらきなかより清水かな」の素材になつたとされる宝ヶ池です。初回に詠んだ句は少なく、旅の途上で立ち寄りのせいだったのかかもしれません。宝ヶ池は姫石の裏にあります。この句は蕉風を強く感じさせます。宝ヶ池に湧く清水が月明かりを浴び光を放ていたのでしょうか。

△姫岩に仏様
長楽寺（千曲市、旧更級郡八幡村）の月見堂の前には、「佛や姫ひとりなく月の友」の句を刻んだ石碑「面影塚」がありますが、現在、林立する句碑の先駆けで明和六年（一七六九）、地元の俳人有志が建立しました。これを機に長楽寺を含むさらしな・姫捨は俳人が訪れたい主要スポットの一つとなり、中秋の長楽寺は一帯はとにかく人が集まる場になっていたようです。

△名月や仮のように膝を組み
この句の前書きには「石上」とあるので、長楽寺境内の姫石の上にいた人たちの様子だということです。あぐらをかいした人たちが月の光を浴びて仏様のように見えたのです。さらに次の句もそのときに詠んだ可能性があるということです――



△暗き中で湧く清水

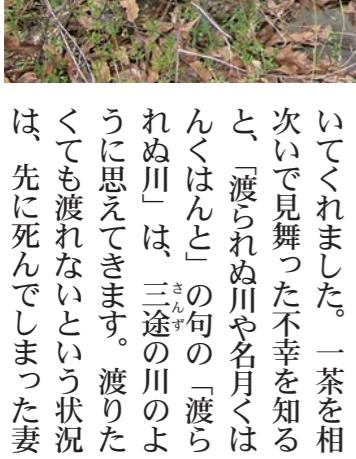
長楽寺境内には、一茶の句碑と明示されたものはありませんが、一茶の句として広まっている（確定はできていません）「信濃ではおらが仏とおらがそば」の碑が建っています。左の写真は矢羽勝幸さんの別の著書「姫捨・いしづみ考」で紹介されているこの句の部分です。旧更埴市（現千曲市）が同じ杏の産地である愛媛県宇和島市と姉妹都市関係を締結した際に、宇和島市が記念に建立したそうです。

宇和島市は松尾芭蕉の母の出身地とされていますが、姉妹関係にあることを教えてくださったのは、矢羽さんの著書の出版に尽力された屋代西沢書店（千曲市桜堂）社長の柳澤純さんです。

上の写真は一茶が姫捨に初めて来た寛政十一年（一七九九）に詠んだ句「姫捨のくらきなかより清水かな」の素材になつたとされる宝ヶ池です。初回に詠んだ句は少なく、旅の途上で立ち寄りのせいだったのかかもしれません。宝ヶ池は姫石の裏にあります。この句は蕉風を強く感じさせます。宝ヶ池に湧く清水が月明かりを浴び光を放ていたのでしょうか。

△姫岩に仏様
長楽寺（千曲市、旧更級郡八幡村）の月見堂の前には、「佛や姫ひとりなく月の友」の句を刻んだ石碑「面影塚」がありますが、現在、林立する句碑の先駆けで明和六年（一七六九）、地元の俳人有志が建立しました。これを機に長楽寺を含むさらしな・姫捨は俳人が訪れたい主要スポットの一つとなり、中秋の長楽寺は一帯はとにかく人が集まる場になっていたようです。

△名月や仮のように膝を組み
この句の前書きには「石上」とあるので、長楽寺境内の姫石の上にいた人たちの様子だということです。あぐらをかいした人たちが月の光を浴びて仏様のように見えたのです。さらに次の句もそのときに詠んだ可能性があるということです――



△暗き中で湧く清水

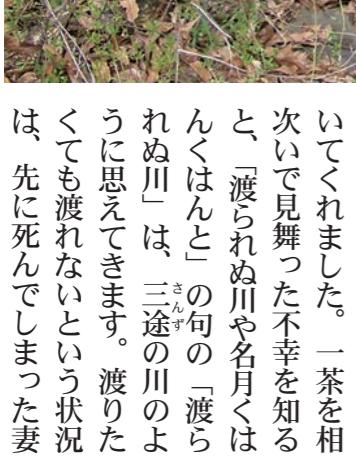
長楽寺境内には、一茶の句碑と明示されたものはありませんが、一茶の句として広まっている（確定はできていません）「信濃ではおらが仏とおらがそば」の碑が建っています。左の写真は矢羽勝幸さんの別の著書「姫捨・いしづみ考」で紹介されているこの句の部分です。旧更埴市（現千曲市）が同じ杏の産地である愛媛県宇和島市と姉妹都市関係を締結した際に、宇和島市が記念に建立したそうです。

宇和島市は松尾芭蕉の母の出身地とされていますが、姉妹関係にあることを教えてくださったのは、矢羽さんの著書の出版に尽力された屋代西沢書店（千曲市桜堂）社長の柳澤純さんです。

上の写真は一茶が姫捨に初めて来た寛政十一年（一七九九）に詠んだ句「姫捨のくらきなかより清水かな」の素材になつたとされる宝ヶ池です。初回に詠んだ句は少なく、旅の途上で立ち寄りのせいだったのかかもしれません。宝ヶ池は姫石の裏にあります。この句は蕉風を強く感じさせます。宝ヶ池に湧く清水が月明かりを浴び光を放ていたのでしょうか。

△姫岩に仏様
長楽寺（千曲市、旧更級郡八幡村）の月見堂の前には、「佛や姫ひとりなく月の友」の句を刻んだ石碑「面影塚」がありますが、現在、林立する句碑の先駆けで明和六年（一七六九）、地元の俳人有志が建立しました。これを機に長楽寺を含むさらしな・姫捨は俳人が訪れたい主要スポットの一つとなり、中秋の長楽寺は一帯はとにかく人が集まる場になっていたようです。

△名月や仮のように膝を組み
この句の前書きには「石上」とあるので、長楽寺境内の姫石の上にいた人たちの様子だということです。あぐらをかいした人たちが月の光を浴びて仏様のように見えたのです。さらに次の句もそのときに詠んだ可能性があるということです――



△暗き中で湧く清水

長楽寺境内には、一茶の句碑と明示されたものはありませんが、一茶の句として広まっている（確定はできていません）「信濃ではおらが仏とおらがそば」の碑が建っています。左の写真は矢羽勝幸さんの別の著書「姫捨・いしづみ考」で紹介されているこの句の部分です。旧更埴市（現千曲市）が同じ杏の産地である愛媛県宇和島市と姉妹都市関係を締結した際に、宇和島市が記念に建立したそうです。

宇和島市は松尾芭蕉の母の出身地とされていますが、姉妹関係にあることを教えてくださったのは、矢羽さんの著書の出版に尽力された屋代西沢書店（千曲市桜堂）社長の柳澤純さんです。

上の写真は一茶が姫捨に初めて来た寛政十一年（一七九九）に詠んだ句「姫捨のくらきなかより清水かな」の素材になつたとされる宝ヶ池です。初回に詠んだ句は少なく、旅の途上で立ち寄りのせいだったのかかもしれません。宝ヶ池は姫石の裏にあります。この句は蕉風を強く感じさせます。宝ヶ池に湧く清水が月明かりを浴び光を放ていたのでしょうか。